

障害のある人の就労支援



春雨が柔らかい桜の蕾をくすぐる3月19日(木)に第201回支援研究会が開催されました。今回のテーマは『障害のある人の就労支援』～一般就労をめざして～です。昨年11月に「就労系サービスについて」と題して、就労継続支援B型事業所の方を発言者にお呼びして支援研究会を開催しましたので、まだ皆さんの記憶に新しいことと思います。今回は“一般就労をめざして”と前回とは異なる視点で、障害のある人の就労支援を考えてみました。



最初に、独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 福岡障害者職業センター 北九州支所 障害者職業カウンセラー 首藤 友子さんに「就労支援とは」「関係機関との連携とは」と題して、障害のある方が仕事に就くまでの流れを、一般就労の場合と、障害者の就労支援を利用した場合を、北九州エリアでの連携を例にご紹介頂きました。

その中で、企業と障害のある人をつなぐときに、障害を前面に出すのではなく、その人自身を見て「特徴や出来ること、得意なことを先に伝える。」ことが大切であるということ。支援者自身に対しては「情報を収集する力、発信する力が必要である。」とのことでした。

引き続き、社会福祉法人 孝徳会 就労支援A型事業所 ひかりと大地 管理者 安田 征司さんに“ひかりと大地”の紹介と「一般就労に向けた取り組み」と題した取り組みのひとつとして、障害者職業センターとひかりと大地、障害者基幹相談支援センターの連携した事例を披露して頂きました。



【事例：30代男性】

基幹支援センターに生活相談をした後、障害者手帳を取得し、ひかりと大地の利用開始。一般就労に向けて取り組みを始め、障害者職業センターにつなぐ。現在は職業評価を受け、目標に向け取り組んでいる。

職業評価*を受けることによって、本人が目標や課題を発見できるメリットがありますが、この時に、職業評価の結果を本人にわかりやすく説明することが大切であることと同時に、本人の負担にならない目標設定が大切であるということでした。

フロアからは、「障害のある人の仕事をサポートする機関が多々あるが、どこに相談したらよいかわからない。」といった質問がありました。それぞれの機関で色々なサポート体制がとられているので、「仕事をしたい」と一言にいても、個人によって仕事に対するイメージが様々であるので、個人に合わせたアプローチが大切で、支援者がそれぞれの特徴を把握し、活かし、連携していくことが大切だということでした。

今年度は障害のある人の仕事に関わる機関の方のお話を伺ってきました。次年度以降は実際に仕事に就いた人の具体的なお話を伺う場を設けたいと思っていますが、障害のある人もない人も一般就労することだけが目標でもゴールでもなく、それぞれの多様な生き方が尊重される社会であればいいと思います。

本日の参加者は45名。内、新規の方は9名でした。ありがとうございました。

【*職業評価とは】就職の希望などを把握した上で、職業能力等を評価し、それらを基に就職して職場に適應するために必要な支援内容・方法等を含む、個人の状況に応じた支援計画を策定します。

障害者職業センター

★職業評価*を通して自己を知るサポート

就労移行支援事業所

★一般就労への移行に向けてのサポート

ハローワーク

★仕事を紹介してサポート

北九州市障害者基幹相談支援センター

★生活全般をサポート

北九州しごとサポートセンター

★就職に必要な事柄を身につけるための訓練や職場体験実習を通してサポート

仕事をしたいなあ



※こちらの議事録は北九州市障害者自立支援協議会のホームページでもご覧いただけます。
<http://kitakyushu-net.shienr.com/>

